

果樹カメムシ、今年はなぜ問題？ 発生生態と発生状況を正しく知ろう！！



図 モモ葉上のクサギカメムシ
(令和6年5月1日撮影)

福島県病害虫防除所
農業総合センター果樹研究所

○果樹カメムシ類

右上：チャバネアオカメムシ

左下：クサギカメムシ

右下：ツヤアオカメムシ

チャバネアオカメムシ



ツヤアオカメムシ

クサギカメムシ

○果樹カメムシ類の被害果



ナシの被害果



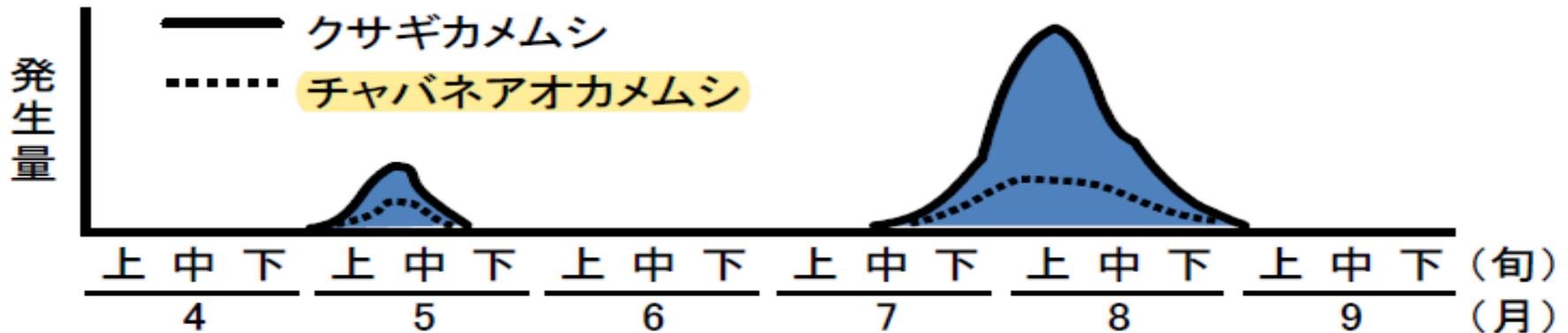
モモの被害果

○福島県における果樹カメムシ類被害の特徴

- 越冬能力の優れるクサギカメムシと繁殖能力の高いチャバネアオカメムシの被害が多い。

→西南暖地で発生が多いツヤアオカメムシは、浜通りで発生が確認されている。

- 越冬世代成虫による5月頃(前期)と、当年世代の新成虫が中心となる7月以降(後期)に被害が発生する。



県北地域における果樹カメムシ類の発生消長

○果樹カメムシ類被害の特徴

- 年次や地域により飛来量や飛来時期が大きく異なる。
→防除対策は、「発生予察」が重要な役割を果たす。
→果樹園への飛来を観察し、飛来を確認した場合は殺虫剤を散布する。
- 夏に、ヒノキ・スギ林に移り、球果を餌に繁殖する。
→球果が少なくなると餌を求めて果樹園に飛来する。
→ナシ、リンゴなどの果実では増殖しにくい
(クサギカメムシはリンゴで増殖する事例がある)

放浪期:主にサクラ、クワなどに寄生。
果樹園にも飛来する可能性がある。



増殖期:ヒノキ、スギの球果で繁殖。
餌がなくなると果樹園に飛来

越冬期:広葉樹の落ち葉下で越冬

チャバネアオカメムシの生活史

○今年の発生について（4月～5月上旬）

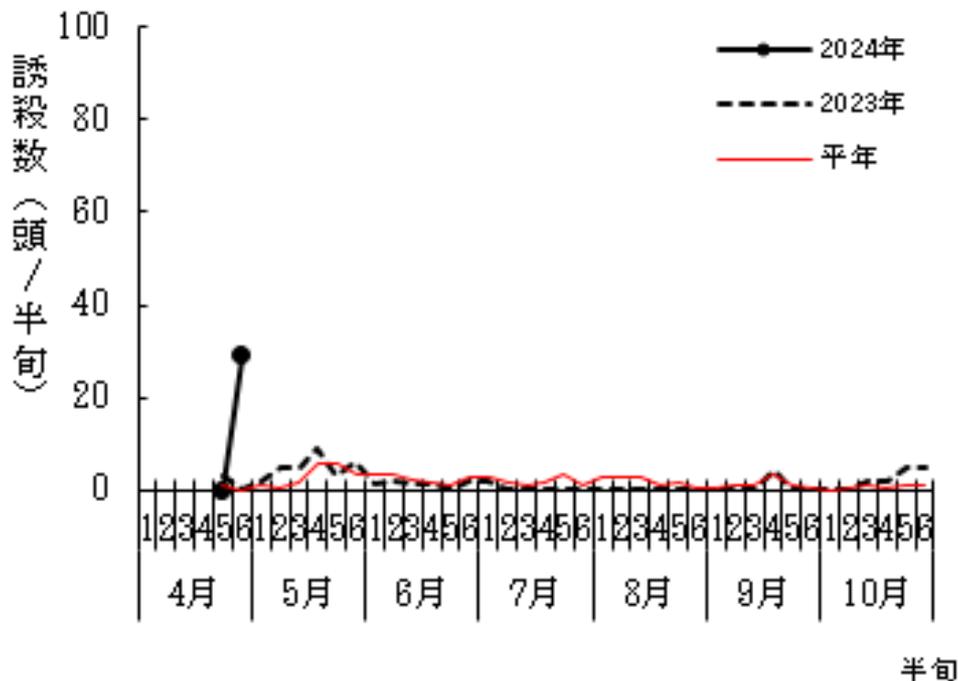


図1 果樹カメムシ類の誘殺状況（国見町）



図 モモ葉上のクサギカメムシ
（令和6年5月1日撮影）

○4月下旬のフェロモントラップ調査：調査地点8地点のうち2地点で例年より早く、誘殺数も例年に比べて多い。

○5月上旬の県北地方のモモ園における飛来調査：福島地域において、クサギカメムシの越冬世代成虫の飛来が平年より多い。

→5月9日付で病害虫防除情報を発表。

○今年の発生について（5月下旬）

発生量：やや多

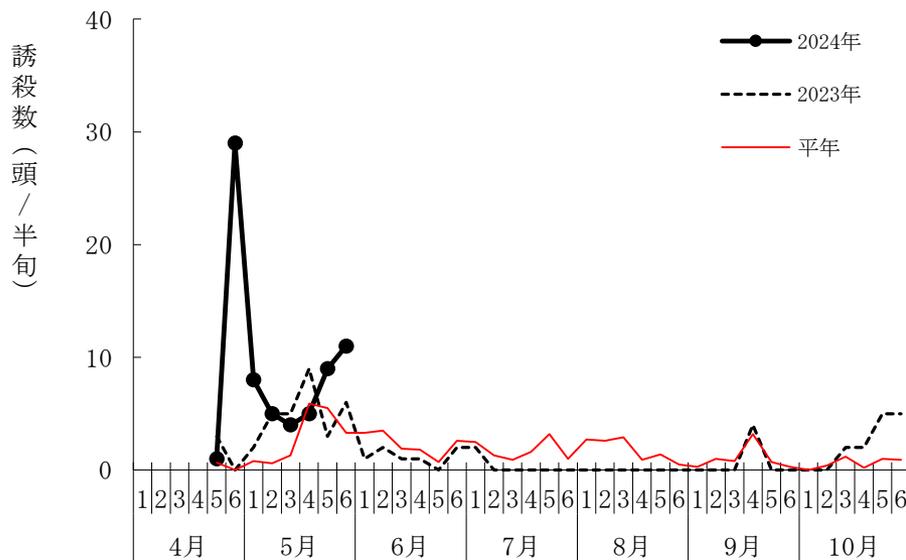


図 果樹カメムシ類の誘殺状況(国見町)

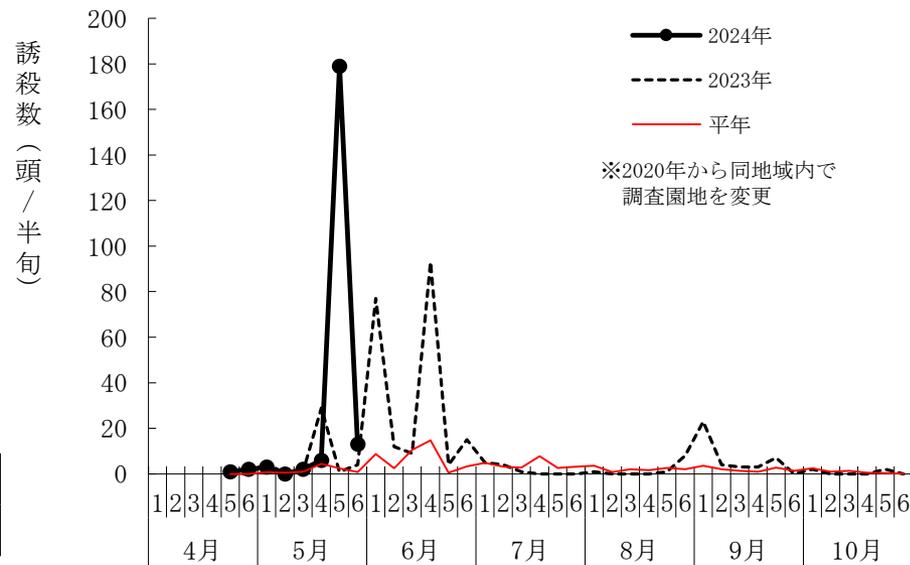


図 果樹カメムシ類の誘殺状況(相馬市)

○5月下旬までのフェロモントラップ調査：調査地点8地点中、6地点で、平年と比較して3～15倍と多い状況。

○5月下旬に誘殺数が増加している地点もあり、越冬世代の果樹園への飛来が6月以降も続くことが懸念される。

※フェロモントラップのデータは病害虫防除所のHPに掲載中。

○今年の発生について（5月下旬）



図 ナシ果実上のチャバネアオカメムシ
(相馬市、令和6年5月29日
果樹研究所撮影)



図 ナシでの果実被害
(相馬市、令和6年5月29日
果樹研究所撮影)



図 モモで果実被害
(福島市)

○県農林事務所や農家防除員からの情報：特に、**県北地方（山間部）、県南地方、いわき地方でのカメムシ類の飛来が多い。**

○5月の巡回調査：果樹カメムシ類のモモ・ナシ園地への飛来や果実被害が確認されており、今後も果実被害の発生を懸念。

→6月6日付で**2回目の病害虫防除情報**を**発表**。

【防除対策】

○園地への飛来を確認した場合は、農作物病害虫防除指針や地域の防除暦を参考に早急に薬剤(有機リン剤、合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤)を散布。その際は、薬剤の使用濃度、収穫前日数などの農薬使用基準を遵守する。

○果樹カメムシ類は移動性が高いため、防除効果を高めるために、できるだけ地域で一斉防除を行う。

有機リン剤：殺虫効果は高いが、残効性は期待できない。

合成ピレスロイド剤：殺虫効果、吸汁阻害効果、残効性ともに優れるが、天敵に影響があるため、ハダニ類やカイガラムシ類などの多発に注意。

ネオニコチノイド剤：吸汁阻害効果、残効性は優れるが、殺虫効果、耐雨性は薬剤により異なる。一部の薬剤は天敵に影響があるため、ハダニ類やカイガラムシ類などの多発に注意。

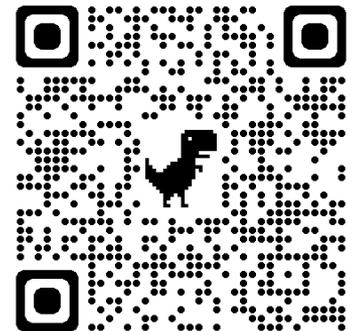
【防除対策】

○果樹園周囲のキリ、クワ、クズ、ハギなどはカメムシ類の食草となり、次世代の発生に結びつくのでこれらを除去するなど適切な管理を行う。

○夏季に発生する次世代成虫の動向についても、園地での飛来状況や当防除所の定期予報等を参考に警戒を続ける。

次回の定期予報発表予定(HPに掲載): 6月26日(水)

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>



○物理的防除について（多目的防災網）



飛来性害虫名	2カ年の平均被害果率(%)
ナシヒメシンクイ	0.05
ハマキムシ類	0
チャバネアオカメムシ	0.59

- ・多目的防災網の設置により果樹カメムシ類を含む飛来性害虫の被害を抑制することができる（平成28年度参考となる成果）

まとめ：果樹カメムシ、今年はなぜ問題？

【発生状況】

○フェロモントラップ調査：例年より早く、誘殺数が例年に比べて多い。

○果樹園への飛来や果実被害を確認。

【今後の対策】

越冬世代の果樹園への飛来が6月以降も続くことを懸念
→園地への飛来を確認した場合、早急に薬剤散布。

病害虫防除所では、引き続き、巡回調査やフェロモントラップデータによる発生予察を実施し、タイムリーな情報発信に努めます。最後に、調査にご協力いただいている防除員の皆様に御礼を申し上げます。